

生体構造機能・病態解析学演習

[演習] 第1学年 前期 選択 2単位

《担当者名》○高橋尚明 下村敦司 森元良太

【概要】

生体構造機能・病態解析学得講 で学んだ臨床症状とその要因について、実際の解剖実習体を観察・計測し、その臨床症状の発生要因を構築学的に考察する。また、解剖実習体を用いて得られた検討結果と、健常者の協力を基に画像診断装置や電気生理的計測手法を用いた生体計測の結果から、三次元的に生体を対象とした発展的考察を行う。さらに、それらの臨床症状に対する予防方法や治療方法の発展と開発、ならびに科学的根拠を高める方法を考察する。

【学修目標】

1. 生体構造・病態解析を行うために必要な局所解剖の知識を深めることができる。
2. 文献を基に学んだ局所解剖学を演習の中で確認し理解することができる。
3. 解剖学と運動学、生理学を結びつけて深化し、臨床症状を考察することができる。
4. 臨床症状に対する予防方法や、治療方法の科学的根拠を向上させる方法を考察することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 ┆ 3	オリエンテーション	計測部位や計測方法を検討し、調査プランを作成する	高橋尚明 下村敦司 森元良太
4 ┆ 12	生体の計測および考察	生体または実習体よりデータを採取する。 得られたデータを基に考察を進める。 最終ディスカッションに用いる資料を作成する。	高橋尚明 下村敦司 森元良太
13 ┆ 15	計測結果および考察の報告とディスカッション	得られたデータを基に報告とディスカッションを行う。 最終報告書をまとめる。	高橋尚明 下村敦司 森元良太

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

―授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による―

【評価方法】

解剖実習やその他の演習への参加状況、データ採取や報告、ディスカッション後に提出される報告書によって総合的に評価する。（100％）

【教科書】

特に指定せず、演習内容や課題内容に応じて必要な資料を推薦または指定する。

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【学修の準備】

参考文献以外にも関連分野の文献等を各自調査し学習すること。（予習・復習各80分）